

ご挨拶

理事

くにみつ ひろまさ

國光 宏昌

(株)EMシステムズ

代表取締役社長執行役員



会員の皆様、平素より一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（以下、JAHIS）の活動にご理解と多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

連日、厳しい暑さが続いていますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。近年は、地球温暖化の影響からか、老若男女問わず誰もが体感するような猛暑が続いています。気候変動による影響は、私たちの日常生活だけでなく、熱中症患者の増加や感染症の流行パターンの変化など、保健医療福祉の現場にも喫緊の課題として現れています。特に、ここ数年の熱中症による搬送者数は高齢者層で顕著な増加が見られ、これは我が国の高齢化の進展とも密接に関わっています。

我が国は、2008年の総人口をピークに人口減少が続き、高齢化は世界に類を見ないスピードで進んでいます。内閣府「令和7年版高齢社会白書」によれば、2024年には高齢化率が29.3%に達しており、今後も増加の一途を辿る見込みです。このような状況に対し、厚生労働省は「2040年を展望した社会保障・働き方改革本部」において、人口減少時代における生産性向上を目指し、「総就業者数の増加」と「より少ない人手でも回る医療・福祉の現場」の実現に向けた検

討を進めています。同時に、人生100年時代に対応した社会保障の持続可能性確保のため、「健康寿命延伸プラン」や「医療・福祉サービス改革プラン」も推進されています。これらの喫緊の課題に対応するためには、情報技術の活用が不可欠です。特に、保健医療福祉分野におけるデジタルトランスフォーメーション、すなわち医療DXの推進は、持続可能で質の高い医療提供体制を構築するための喫緊の課題となっています。医療DXの背景には、医療情報のサイロ化、医療現場の業務負担軽減、そして国民自身の健康増進への意識向上といった多様なニーズがあります。これまでも医療分野におけるIT化は進められてきましたが、各医療機関のシステムが独立しており、情報連携が不十分な点が課題でした。このような状況に対し、国は「医療DX令和ビジョン2030」を提言し、具体的な取り組みを進めています。2019年9月には厚生労働省「データヘルス改革推進本部」により、「ゲノム医療・AI活用の推進」「自身のデータを日常生活改善等につなげるPHRの推進」「医療・介護現場の情報利活用の推進」「DBの効果的な利活用の推進」という4つのデータヘルス改革の方向性が示されました。そして、「医療DX推進に関する工程表」に基づき、「全国医療情報プラットフォームの構築」をはじめとする基盤整

備と段階的な活用が開始されています。これにより、医療機関間の情報共有の円滑化、国民一人ひとりの医療情報の効果的な活用、そして医療現場の業務効率化が大きく期待されています。私たちJAHISは、これらの国の動きと足並みを揃え、医療DXの実現に向けて積極的に貢献していく所存です。

JAHISはこれまで、保健医療福祉情報システムの将来ビジョンを検討し、会員の皆様、そして関係団体・機関に提示してまいりました。1994年の創立以来、私たちは保健医療福祉情報システムに関する技術の向上、品質および安全性の確保、標準化の推進を図ることで、健康で豊かな国民生活の維持向上に貢献してまいりました。JAHISは2024年4月に創立30周年を迎えました。5年前には「2030ビジョン」を策定いたしました。この5年間で進展した政府施策とその成果、そして国民の生活環境の変化、特に全国医療情報プラットフォームの全体像を深く検証し、その解像度を高めた「2030ビジョン（改訂版）」を本年1月に策定いたしました。これは、JAHIS創立30周年という節目に、私たちの未来への強い決意を示すものです。また、創立30周年記念事業の一環として、JAHISが掲げる「データ循環型社会」を紹介する絵本を制作いたしました。保健・医療・福祉分野における情報システムの重要性をご理解いただき、未来への希望を育んでいただければと願っております。

これからもJAHISは、保健医療福祉情報システムの発展を通じて、健康で豊かな国民生活の実現に貢献してまいります。皆様の一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。